

## サラリーマンの私が作家になれたわけ

皆さんはなんのために読書をしていますか？ 楽しむため？ 知識を得るため？ 考えを整理するため？ おそらく色々あると思います。いずれにしても人は読書を生きる生き物です。それはバスカルの言う「考える葦」であることを宿命づけられた人間の本能と言っても過言ではないでしょう。

だから巷には読書術を指南する本があふれているのだと思います。皆、より効率よく、あるいはより楽しく本を読む方法を知りたいわけです。そんなふうにするに読書術を指南する本はたくさんあるわけですが、本書は二つの点で他の読書術とは大きく異なります。一つ目は、哲学者が書いているという点。二つ目は、読書をアウトプットに生かすということを目的にしている点です。

一つ目の哲学者が書いているという点については、それによって読書の本質をとらえた提案が可能になります。哲学者は、物事を本質にさかのぼって考えることを生業にしているからです。したがって、単なるスキルではなく、読書という営みの本質にさかのぼって読書哲学を伝授することができるわけです。

二つ目のアウトプットについては、本当はこれぞ読書の目的だと思っています。もちろん楽しむだけというのでもいいのですが、せっかく読むのだから、何かに役立てようとするのが人間です。いや、意識せずとも、何か本を読めば私たちはそれを人生や仕事に生かしているはずですよ。たとえそれが小説であったとしても。

とするならば、**もっとストレートにアウトプットすることに特化した、そのこと自体を目的とした読書術**があってもいいと思うのです。私はこの点については自信があります。なぜなら、私自身が、毎月ほぼ1冊ずつ、この10年間で100冊以上の本を出してきたからです。その意味で、いわば実証済みの方法論だと思っただけであればいいでしょう。

私はもともとサラリーマンでした。そんな私が急に本を書けるようになって、それどころか10万部以上売り上げるベストセラー作家の仲間入りをし、ビジネス書大賞にもノミネートされるようになったのはなぜか？ それはこのアウトプット読書術を見